

地球全体のわずか0.01% 限られた飲み水を使う

地球上には約14億立方キロメートルの水が存在しています。この水のうち私たちが飲む水はどのくらいあるのでしょうか。

海水

海の水は約13億6200万立方キロメートルで地球表面の71%を占めています。海の最も深いところは太平洋にあるマリアナ海溝にあり、その深さは1万9111メートルあります。富士山を3つ積み重ねたくらい深いです。海には浅いところもあります。それでも地球全体の海の深さを平均すると3729メートルで、富士山の標高3776メートルとほぼ同じ深さです。この面積と深さから海水の量を計算すると、実に地球上の水の97.5%

氷や雪

地球全体の水の2.5%は海水以外の水です。では、この水は全て飲める水ということになるのでしょうか。実はそうではありません。海水以外の水の99.8%は、南極などにある氷床や標高の高い山にある氷河として凍りついた状態で存在しているのです。凍りついた水を飲み水として利用できません。

淡水

私たちが飲む水は淡水です。淡水は地球全体の水の0.8%しかありません。しかし淡水のほとんど(98.7%)は地下水で、地下に閉じ込められています。私たちが人類や多くの動物が

物が生きるために太古から利用してきた水は、湖の水、沼や沢の水、河川水で、地球全体の水の量のわずか0.01%にすぎないのです。

私たちが人類は飲み水や産業・農業でつかう水を手に入れるために、淡水で最も多い地下水に目をつけました。そして知恵と技術で地下水をくみ上げるための井戸やポンプを開発しました。しかし、地下水を過剰にくみ上げたことによって地下水がなくなってしまうたり、土地が沈んでしまったり(地盤沈下)することが多発するようになってきています。また、人々が出す汚染物質や生活排水で地下水が汚れてしまい飲み水として使えなくなってしまうこともたくさん報告されています。

日本は世界的にも水に恵まれた国です。そこで暮らしている私たちは普段実感できないかもしれませんが、ヒトや動物はごく限られた水で生きているのです。

(山梨大国際流域環境研究センター特任助教 中村高志)



世の中には不思議で分かりづらいことがたくさんあります。自然、科学、歴史など、詳しい先生に解き明かしてもらいましょう。

知りたい好奇心

地球上の水の割合

